

大淵の雨ふり山

大淵の大坂に「雨ふり山」といわれているところがあります。この山へはいった者は雨に降られて、逃げ帰ってくるものが多く、村の人々からいつからともなく「雨ふり山」と呼ばれるようになったということです。

山にはいると大雨が

ある年の秋、働き者だと評判の若者が山へ仕事に出かけました。

まだ一度もはいつたことのない山へはいり、仕事にかかろうとすると、薄気味悪い雲が空を覆い大粒の雨が降り出しました。若者は急いで道具を片づけると、雨がやみ青空が見え



昭和六十年一月一日号

てきました。「これはよかつた」とまた仕事にかかると、さつきより強い雨が降ってきました。

若者はなおも仕事を続けると、今度はすさまじい雷と大雨が一緒にやってきました。若者は驚いて一目散に山を逃げ出しました。

村人たちは若者の話を聞いて「そんなばかなことがあるものか」と笑いました。

二・三日たつて、村人の一人がその山にはいったところ、やはり雨に降られて逃げ帰りました。

こんなことが繰り返されているうちに、いつか雨ふり山と呼ばれるようになりました。

言い伝えの看板を

みどりの少年団 武口美由起さん

郷土のことをもつと知ろうと、一年前、雨ふり山の言い伝えを書いた看板を現地に立てた「ふじもとみどりの少年団」。

みどりの少年団の武口美由紀さんは「地元にもこんなおもしろい言い伝えがあったんだなあ」と知り、改めて郷土のことに興味を持ちました」と語っていました。